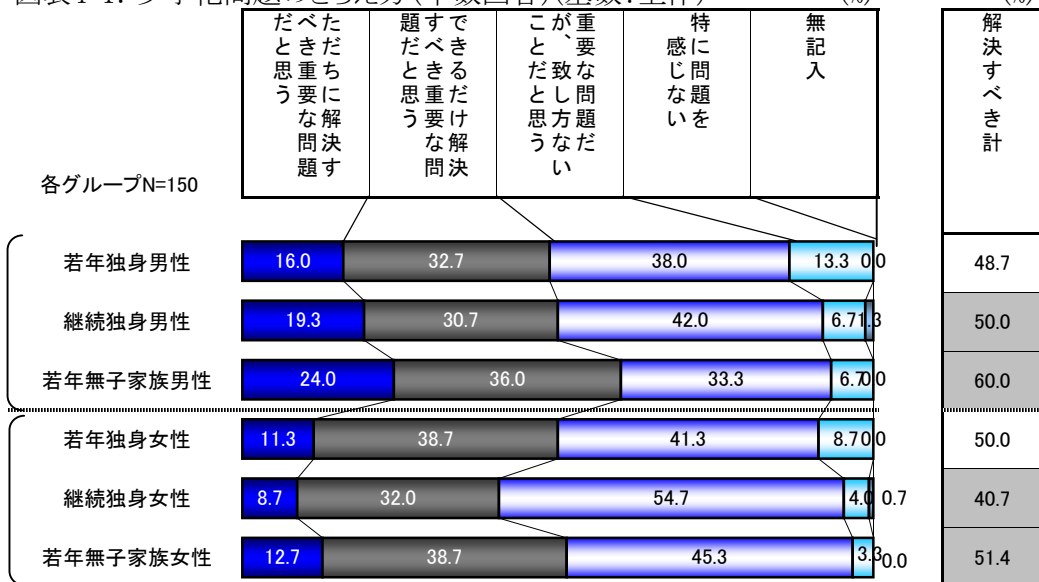


#### 4. 少子化についての考え方

○ 少子化問題のとらえ方について、【継続独身】は、「ただちに解決すべき重要な問題だ」と思う」又は「できるだけ解決すべき重要な問題だ」と回答した者の割合が、男性で5割、女性で4割にとどまり、【若年無子家族】に比べて1割程度低くなっている。

図表4-1. 少子化問題のとらえ方(単数回答)(基数:全体) (%) (%)



#### 5. 【継続独身】についてのまとめ

○ 【継続独身】は、【若年独身】や【若年無子家族】に比べて、結婚について、「好きな人と一緒にいられる」という精神的な満足を得るものよりは、「社会的な信用」や「経済的な安定」という物質的な満足を得るものと捉える傾向が強い。また、結婚に伴う「ストレス」や「義父母や親戚などとのつきあい」という面を強く意識する傾向がある。

○ このような中で、『結婚には喜びや希望を感じる』と受け止める者が、男性では8割弱、女性では7割と他のグループに比べて少ないが、実際に結婚している【若年無子家族】では男女とも9割を超えている。

○ さらに、「親孝行」や「恩返し」という伝統的価値観が低く、「自己の能力」や「生き方」に対する自信も幾分弱く、「自分の健康・病気」、「老後の生活」及び「親の介護」という“自分に直接関わること”に不安を抱く傾向がある。

○ したがって、【継続独身】については、物質的な満足感を追求し、個人や自分を強く意識する傾向がある中で、精神的な満足感を含め、結婚の意義や大切さを伝える取組を更に推進することが必要である。

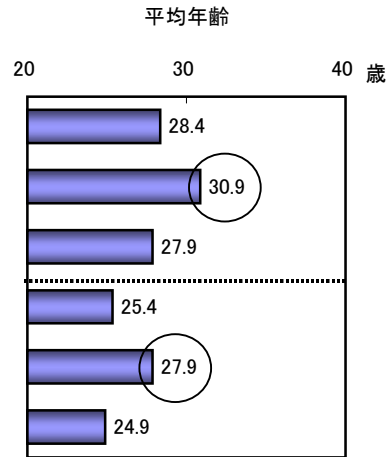
## II 「継続無子家族」と「若年無子家族」・「若年一人っ子家族」の比較

### 1. 結婚意識

○ 平均結婚年齢について、男女とも【継続無子家族】は相対的に高く、他グループと3歳ほどの開きがある。

図表1-1. 結婚年齢(単数回答)(基数:全体) (%)

各グループN=150	25歳以下	26-29歳	30歳以上	無記入
	若年無子家族男性	25.3	44.7	
継続無子家族男性	12.0	31.3	56.7	0.0
若年一人っ子家族男性	30.7	40.0	29.4	0.0
若年無子家族女性	54.0	42.0	3.3	0.7
継続無子家族女性	33.4	39.4	26.7	0.7
若年一人っ子家族女性	58.0	36.7	4.7	0.7



○ 結婚のきっかけについて、男女とも【継続無子家族】は「きっかけはないが一緒に暮らしたかった」が相対的に低く、「自分の年齢を考えて」が相対的に高い状況となっている。

また、女性の場合は「交際期間の長さを考えて」も相対的に低い状況となっている。

図表1-2. 結婚のきっかけ(複数回答)(基数:全体) (%)

各グループN=150	きっかけはないが一緒に暮らしたかった	自分の年齢を考えて	交際期間の長さを考えて	家族・子どもが欲しくなったので	相手の年齢を考えて	親が心配しているの	相手に結婚を迫られて	友達・仲間の多くが結婚したので	生活に変化が欲しくなったので	子どもができたので	結婚した方が経済的に	親の年令を考えて	転職・海外赴任が	近親者が病気になるので	職場の上司から薦められて	ライバルが出現したので
	若年無子家族男性	52.0	36.0	32.7	20.0	23.3	8.0	4.7	7.3	4.0	1.3	6.7	4.0	3.3	1.3	0.7
継続無子家族男性	40.7	49.3	20.7	10.0	16.7	9.3	6.7	8.0	4.0	0.0	1.3	3.3	2.0	2.0	0.7	0.7
若年一人っ子家族男性	46.7	35.3	20.7	24.7	18.0	3.3	4.7	8.0	5.3	11.3	2.0	4.0	4.7	1.3	0.7	0.7
若年無子家族女性	50.0	25.3	27.3	13.3	9.3	12.0	13.3	6.7	11.3	0.7	10.0	2.0	2.7	0.7	0.7	0.0
継続無子家族女性	36.0	42.0	13.3	10.0	8.7	15.3	11.3	10.0	8.0	1.3	5.3	2.0	1.3	1.3	0.0	0.0
若年一人っ子家族女性	41.3	34.0	30.7	18.7	13.3	8.7	14.7	3.3	6.0	16.7	1.3	2.7	3.3	1.3	0.7	0.0

○ 結婚のよい点について、男女とも【継続無子家族】は、「家族や子どもを持てる」及び「好きな人と一緒にいられる」が相対的に低い状況となっている。

また、男性の場合は、「精神的な安定が得られる」及び「人生の喜びや悲しみを分かち合える」が相対的に高く、女性の場合は、「経済的な安定が得られる」が相対的に高い状況となっている。

図表1-3. 結婚のよい点(複数回答)(基数:全体) (%)

	家族や子どもを持てる	精神的な安定が得られる	好きな人と一緒にいられる	人生の喜びや悲しみを分かち合える	社会的な信用が得られる	経済的な安定が得られる	親や周囲の期待に応えられる	一人前の大人だと感じられる	親から独立できる	交友関係が広がる	生活上の不便が無くなる	性的な充足が得られる	あてはまるものはない
各グループN=150													
若年無子家族男性	48.7	65.3	74.7	44.7	22.0	4.7	10.0	16.0	6.7	10.7	10.7	8.7	0.7
継続無子家族男性	32.0	75.3	56.7	54.0	32.0	6.7	11.3	17.3	6.0	9.3	17.3	12.0	0.7
若年一人っ子家族男性	83.3	61.3	62.7	45.3	29.3	4.0	8.0	14.7	8.7	8.7	16.0	14.0	0.7
若年無子家族女性	51.3	74.7	71.3	60.7	17.3	22.7	14.0	11.3	20.0	8.7	9.3	7.3	0.7
継続無子家族女性	24.7	69.3	53.3	49.3	19.3	29.3	13.3	8.7	18.0	13.3	8.7	3.3	3.3
若年一人っ子家族女性	84.7	56.0	62.0	50.0	15.3	16.7	18.7	6.7	10.7	8.7	6.0	4.0	0

○ 結婚のよくない点として、男女とも【継続無子家族】は「自分の自由になる時間が少なくなる」及び「自分の自由になるお金が少なくなる」が相対的に低く、「あてはまるものはない」が相対的に高い状況となっている。

図表1-4. 結婚のよくない点(複数回答)(基数:全体) (%)

	自分の自由になる時間が少なくなる	行動が制限される	自分の自由になるお金が少なくなる	義父母や親戚など人間関係が複雑になる	家事に縛られる	ストレスがたまる	家族扶養の責任が生まれる	仕事やしづらくなる	交友関係が狭くなる	恋愛が自由にならなくなる	親元から離れなければならない	生活のレベル・質が落ちる	あてはまるものはない
各グループN=150													
若年無子家族男性	40.7	44.7	50.0	14.7	4.7	9.3	19.3	0.7	9.3	9.3	1.3	4.0	12.7
継続無子家族男性	30.7	47.3	35.3	20.0	3.3	9.3	14.0	0.0	3.3	7.3	0.0	3.3	26.0
若年一人っ子家族男性	54.0	54.0	58.0	18.0	2.7	11.3	22.0	0.7	7.3	5.3	0.7	3.3	12.7
若年無子家族女性	33.3	34.0	37.3	42.7	26.7	16.0	8.0	14.7	10.7	11.3	16.7	4.0	10.0
継続無子家族女性	30.7	38.7	22.7	51.3	32.0	21.3	6.0	11.3	6.7	8.7	6.7	5.3	13.3
若年一人っ子家族女性	56.0	48.7	44.7	46.7	38.0	28.0	7.3	19.3	12.0	8.0	10.7	2.7	5.3

## 2. 家族意識

○ 子どもの位置づけについて、【継続無子家族】は、「生きがい・喜び・希望」、「無償の愛を捧げる対象」及び「夫婦の絆を深めるもの」が相対的に低く、「独立した一人の人間」及び「自分の血を後世に残せるもの」が相対的に高い状況となっている。

図表2-1. 子どもの位置付け(回答3つまで)(基数:全体) (%)

各グループN=150	生きがい・喜び・希望	無償の愛を捧げる対象	夫婦の絆を深めるもの	独立した一人の人間	自分の血を後世に残せるもの	自分の分身	社会的資産	配偶者の分身	経済的負担を与えるもの	老後の面倒を見る人	精神的負担を与えるもの	ライバル
若年無子家族男性	66.0	36.7	46.0	28.0	32.0	21.3	3.3	8.7	4.7	2.0	1.3	0.0
継続無子家族男性	55.3	30.0	33.3	30.7	44.7	22.7	7.3	8.0	4.0	2.0	1.3	1.3
若年一人っ子家族男性	88.7	59.3	42.7	15.3	20.0	24.0	4.7	4.7	1.3	2.7	0.7	2.0
若年無子家族女性	66.0	53.3	48.0	26.0	19.3	17.3	2.0	10.7	8.0	1.3	3.3	0.0
継続無子家族女性	46.7	40.7	30.0	40.0	30.7	15.3	7.3	5.3	6.0	3.3	4.0	0.7
若年一人っ子家族女性	79.3	71.3	39.3	29.3	12.0	22.7	3.3	4.0	0.0	0.0	2.0	0.7

○ 子どもに残したい・伝えたいものについて、男女とも【継続無子家族】は、「親子の絆」が相対的に低い状況となっている。

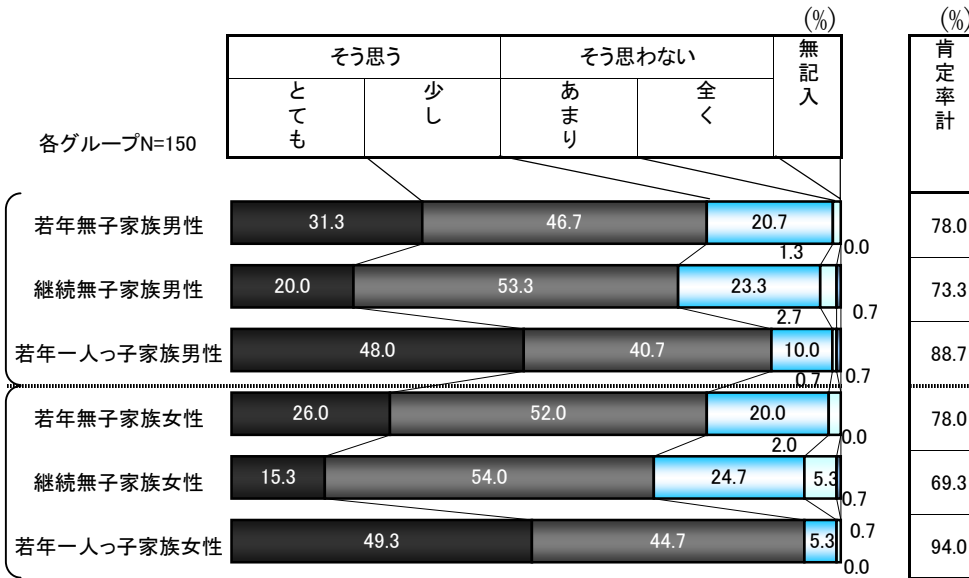
図表2-2. 子どもに残したい・伝えたいもの(回答3つまで)(基数:全体) (%)

各グループN=150	生ききて行く上での強さ・知恵	愛	親子の絆	人生の素晴らしさ	自分の人生観	財産	家訓・先祖から守ってきたこと	ネットのつきあいやワーク	自分の夢	仕事・家業	築いてきた地位
若年無子家族男性	71.3	30.0	35.3	28.7	21.3	15.3	4.7	5.3	4.0	4.7	0.0
継続無子家族男性	66.7	26.0	26.7	30.7	19.3	12.0	6.7	2.0	2.7	4.0	0.7
若年一人っ子家族男性	76.7	28.7	39.3	31.3	13.3	14.0	6.7	3.3	4.7	2.7	0.0
若年無子家族女性	74.0	50.7	38.0	30.7	8.7	8.0	6.7	6.0	4.7	0.7	0.0
継続無子家族女性	78.0	44.0	26.7	32.0	10.0	8.0	8.0	1.3	2.0	0.7	0.0
若年一人っ子家族女性	84.7	46.7	42.7	22.7	3.3	14.0	3.3	1.3	2.7	0.0	0.0

### 3. 育児意識

○ 『子育ては辛いことより楽しいことの方が多いいはずだ』に対する意見について、【継続無子家族】では肯定する者の割合が男女とも7割前後であるのに対し、【若年一人っ子家族】では9割前後に達している。

図表3-1. 『子育ては辛いことより楽しいことの方が多いいはずだ』に対する意見(単数回答)(基数:全体)



○ 理想の子ども数はどのグループの男女とも「2人」が最も多いが、【継続無子家族】の女性の平均は1.83人と少ないものの、理想の人数と持つつもりの人数の差は1.34と最も大きい。

また、今後子どもをもうける意向のある者は、【継続無子家族】の男性では6割、女性では3割と男女間の差が大きい。

図表:3-2.理想の子ども数、今後子どもをもうける意向とその人数(各単数回答)(基数:全体)

各グループN=150	理想の子ども数					今 後 子 ど も を う け る 意 向 率 (%)	今後もうける 予定の子ども 数		平均子ども数(人)		
	1 人	2 人	3 人	4 人 以 上	も う け た く は な い		1 人	2 人 以 上	理 想 の 人 数	持 つ つ も り の 人 数	の 理 想 と 持 つ つ も り
若年無子 家族男性	6.0	59.3	28.7	3.3	2.7	90.0	14.7	75.3	2.25	1.79	0.46
継続無子 家族男性	4.7	60.7	24.7	0.0	10.0	62.7	27.3	35.4	2.00	1.03	0.97
若年一人っ子 家族男性	4.0	61.3	32.0	2.7	0.0	76.7	62.7	14.1	2.34	1.93	0.41
若年無子 家族女性	6.0	54.7	30.7	4.0	4.7	92.7	23.3	69.3	2.23	1.76	0.47
継続無子 家族女性	6.0	51.3	21.3	2.7	18.7	32.7	16.7	16.0	1.83	0.49	1.34
若年一人っ子 女性家族	7.3	51.3	39.3	2.0	0.0	58.0	50.7	7.4	2.36	1.22	1.14

○ 今後持つ予定の子ども数が理想より少ない理由について、男女とも【継続無子家族】は、「経済的負担が大きいから」が相対的に低く、「子どもができないから」や「高年齢出産になるから」が相対的に高い状況となっている。

図表3-3. 今後持つ予定の子ども数が理想より少ない理由(複数回答)

(基数: 理想より持つ予定数が少ない人および子どもは持たない人)(%)

	n	経済的負担が大きいから	高年齢出産になるから	健康・体力にから	子どもができないから	心理的負担が大きいから	時間ゆとりが	将来が子どもにとつて	子どもを育てる	自分の人生を生きる	家が狭いから	末子が定年退職までに	配偶者の育児への協力が	夫婦2人だけの生活を	もともとは子どもが
若年無子家族男性	54	63.0	9.3	5.6	11.1	11.1	5.6	13.0	9.3	11.1	5.6	7.4	3.7	11.1	3.7
継続無子家族男性	100	23.0	47.0	15.0	52.0	9.0	9.0	15.0	7.0	5.0	2.0	6.0	3.0	11.0	0.0
若年一人っ子家族男性	57	73.7	5.3	14.0	12.3	12.3	10.5	5.3	1.8	3.5	14.0	5.3	1.8	1.8	0.0
若年無子家族女性	61	67.2	13.1	14.8	18.0	14.8	16.4	13.1	18.0	11.5	4.9	3.3	6.6	11.5	8.2
継続無子家族女性	132	22.7	46.2	21.2	53.8	13.6	8.3	18.9	17.4	13.6	1.5	2.3	4.5	10.6	11.4
若年一人っ子家族女性	87	66.7	12.6	26.4	17.2	14.9	16.1	11.5	2.3	3.4	11.5	4.6	23.0	0.0	1.1

#### 4. 自己意識・社会意識

○ 男女とも【継続無子家族】は、「親孝行」や「恩返し」をすることは大事なことだ」といった伝統的価値観が相対的に低く、「社会がよくなってこそ個人が幸せになる」や「政治や社会問題に関し議論するのが好き」が相対的に高い状況となっている。

図表4-1. 価値観(複数回答)(基数: 全体)

(%)

	親孝行をすることは	世の中には、不公平な	日本の社会通念や習慣は	恩返しをすることは	個人の権利や自由を	社会が良くなってこそ	日本人であることを	間違っていると思う人が	政治や社会問題に関し	自分の能力や生き方に	まじめに努力すれば、	自分の将来は明るい	誰もみでなければ多	21世紀は希望に満ちた
各グループN=15														
若年無子家族男性	77.3	70.0	42.0	60.7	50.7	39.3	27.3	22.7	20.0	20.0	5.3	11.3	2.7	2.7
継続無子家族男性	66.0	60.7	47.3	51.3	52.7	46.0	28.7	18.0	26.7	20.0	10.7	6.0	2.0	4.7
若年一人っ子家族男性	67.3	70.0	46.7	56.0	44.7	39.3	30.7	22.7	13.3	19.3	7.3	8.7	5.3	1.3
若年無子家族女性	82.7	54.0	50.7	57.3	56.7	36.0	23.3	10.7	7.3	15.3	5.3	12.7	1.3	0.0
継続無子家族女性	67.3	69.3	46.7	44.7	41.3	50.0	23.3	10.0	11.3	6.7	4.7	2.0	0.0	0.7
若年一人っ子家族女性	76.0	68.7	54.0	50.0	42.7	40.0	12.0	14.0	8.0	4.7	5.3	4.7	0.7	0.0

○ 現在及び将来の不安について、男女とも【継続無子家族】は、「老後の生活」が相対的に高い状況となっている。  
 また、男性の場合には、「親の介護」が相対的に高く、「国の経済・景気」、「自分の進路・将来」及び「財産・貯蓄の目減り」が低い状況となっている。  
 一方、女性の場合は、「自分の健康・病気」、「国の経済」、「日本の将来・行方」及び「リストラ・失業」が相対的に高い状況となっている。

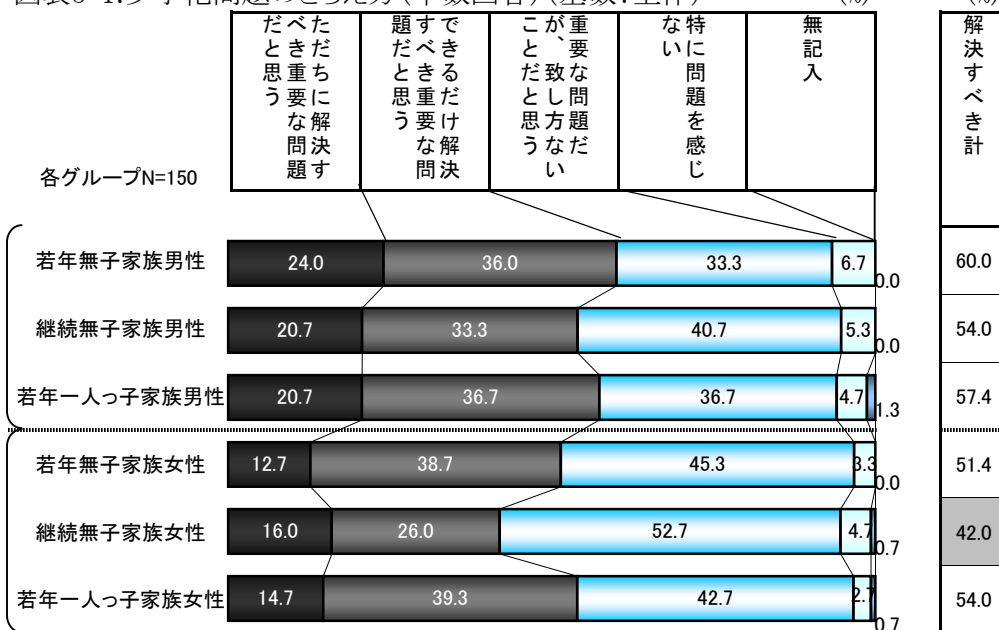
図表4-2.現在及び将来の不安(複数回答)(基数:全体) (%)

	家族の健康・病気	自分の健康・病気	老後の生活	国の経済・景気	親の介護	社会の治安	給与・年収のダウン	日本の将来・行方	子どもの将来	リストラ・失業	自分の進路・将来	財産・貯蓄の目減り	妊娠・出産	結婚・離婚	自分の会社の業績・将来
各グループN=150															
若年無子家族男性	56.7	51.3	39.3	54.7	30.0	32.7	45.3	40.0	10.7	29.3	28.7	20.0	22.0	6.0	20.7
継続無子家族男性	61.3	56.0	55.3	40.7	38.7	35.3	42.7	45.3	4.7	26.0	15.3	16.0	15.3	2.7	22.7
若年一人っ子家族男性	68.0	55.3	40.0	49.3	27.3	37.3	47.3	44.0	56.0	20.0	22.7	21.3	2.0	3.3	27.3
若年無子家族女性	66.0	44.7	50.7	43.3	37.3	39.3	38.0	30.7	9.3	21.3	14.0	23.3	60.7	4.7	3.3
継続無子家族女性	70.7	60.0	73.3	53.3	56.7	46.0	40.7	39.3	0.7	27.3	14.0	22.0	21.3	1.3	4.0
若年一人っ子家族女性	69.3	46.7	47.3	42.7	56.0	43.3	42.7	27.3	64.7	22.0	7.3	18.0	12.7	6.7	2.0

## 5. 少子化についての考え方

○ 少子化問題のとらえ方について、【継続無子家族】は、「ただちに解決すべき重要な問題だと思う」又は「できるだけ解決すべき重要な問題だと思う」と回答した者の割合が、男性で5割強、女性で4割強となっており、【若年一人っ子家族】と比べて女性で1割程度低くなっている。

図表5-1.少子化問題のとらえ方(単数回答)(基数:全体) (%)



## 6. 【継続無子家族】についてのまとめ

- 【継続無子家族】は、平均結婚年齢が【若年無子家族】及び【若年一人っ子家族】に比べて3歳ほど高く、年齢的なきっかけから結婚に至ったケースが多い。
- また、結婚のよくない点について「あてはまるものはない」と答える人が他のグループより多く、現在の結婚生活の満足度は高い傾向にある。
- 今後持つ子どもの数と理想の子ども数との開きが他グループに比べて大きく、今後子どもをもうける意向がある人も男性では6割、女性では3割にとどまる。この要因としては、経済的負担が大きくなることよりも不妊や高年齢出産を避けたいという意識が働くことによるところが大きい。
- さらに、『子育ては辛いことより楽しいことが多い』と受け止める者が7割前後と他グループに比べて少ないが、実際に子どもを持っている【若年一人っ子家族】では9割前後に達している。
- また、「親孝行」や「恩返し」という伝統的価値観が低い一方で、社会への要求が高い状況が見受けられる。
- したがって、【継続無子家族】については、【継続独身】と同様に、個人や自分を強く意識する傾向がある中で、より若い時代から、子どもを生み、育てることの意義や大切さを伝える取組を推進することが必要である。